

<b>日本語表現論</b> <b>(Japanese Expression)</b>	<b>1年・前期・2単位・必修</b> <b>3専攻共通・担当 鍵本 有理</b>	
	〔システム創成工学教育プログラム 学習・教育目標〕 C-1 (80%), A-1 (20%)	〔JABEE 基準〕 (f), (a)
〔講義の目的〕 技術者は、各自の専門分野や研究内容を、他人にわかりやすく説明できる能力が求められる。また、社会人としてもあらゆる状況において、物事を説明したり各種の文書を作成したりする能力が要求される。さまざまなメディアが発達した現在こそ、基本である「言葉による表現」ということを見直す必要がある。 本講義では、日本語による表現能力（書く・話す・聞く）を養成することとする。		
〔講義の概要〕 さまざまな種類の文章を実際に書きながら、文章についての基本的な知識を身につける。 また文書の形式を学びながら、よりわかりやすい表現について考える。 「話す」ことについても、自己紹介などの状況設定でロールプレイを行い、実践することとする。		
〔履修上の留意点〕 表現するということは、日常の学習や生活に密着した問題であるので、日頃自分たちが行っている会話、目にする文章の表記や形式・表現方法について、問題意識を持っておくことがのぞましい。		
〔到達目標〕 1) 「書く」「話す」「聞く」という表現において、基本的な知識と技法を身につける。 2) 公的な文書の形式を理解し、また、わかりやすい表現について考え、工夫することができる。		
〔評価方法〕 授業中の演習態度・課題提出（60%）と試験（40%）で総合評価する。 補助教材や課題プリントは全てA4ファイルに保存し、随時提出することとする。		
〔教科書〕 私家版テキストを使用する。（購入については最初の講義時に説明する） 〔補助教材・参考書〕 プリントを用意する。 国語辞典を一冊準備しておくといよい（講義中に説明する）。 『日本語を話すトレーニング』野田尚史・森口稔、ひつじ書房 『文章作法事典』樺島忠夫、東京堂出版		
〔関連科目〕 各自の専門科目を含めた全ての科目。 国語等の科目だけでなく、受講生の研究内容紹介などもふまえて講義を行う。		

## 講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	ガイダンス/ グラフの利用(1)	講義の進め方等のガイダンス、「よい文章」の定義/ グラフの書き方・有効な利用の仕方について考えさせる。	
第2週	文章を書く基礎知識 グラフの利用(2)	原稿用紙の使い方について確認する。誤字に対する注意 力を養う。グラフの効果的な作図について解説する。	
第3週	自己紹介の方法 推敲・校正記号	志望動機書を例に、印象に残る文章について考えさせる。 推敲の仕方・校正記号について解説する。	
第4週	面接について 構想メモの作成	自己紹介を実践し、好印象を与える面接について考えさせ る。「ブレン・ストーミング」を利用して構想を練る能力 を養う。	
第5週	客観的表現・作文	客観的な表現方法を理解させる。 構想メモを生かした作文を書く。	
第6週	描写の方法	物事を文章で描写する能力を養う。	
第7週	表記の問題	「常用漢字」や送り仮名、外来語の表記に関する問題意識 を持たせる。	
第8週	手紙(1)	手紙の形式に関する基本的知識を身につけさせる。	
第9週	手紙(2)・説明の仕方(1)	手紙を書く能力を養うとともに敬語について解説する。 「説明の仕方」の教材を準備する。	
第10週	説明の仕方(2)	物事を順序立てて説明する方法と、その際の注意点を考え るようにする。	
第11週	わかりやすい表現(1)	公文書の形式を利用して、わかりやすく表現する方法につ いて考えさせる。	
第12週	わかりやすい表現(2)	さまざまな文章を例として、よりわかりやすい表現を工夫 する能力を養う。	
第13週	小論文(1)	小論文の書き方について解説する。	
第14週	小論文(2)・悪文	小論文を作成する。「悪文」について考えさせる。	
第15週	まとめ/よい文章とは	「悪文」についての講義、またこれまでの講義内容をふま え、再び「よい文章」について考えさせる。	
試験			

\* 4：完全に理解した，3：ほぼ理解した，2：やや理解できた，1：ほとんど理解できなかった，0：まったく理解できなかった。  
(達成) (達成) (達成) (達成) (達成)